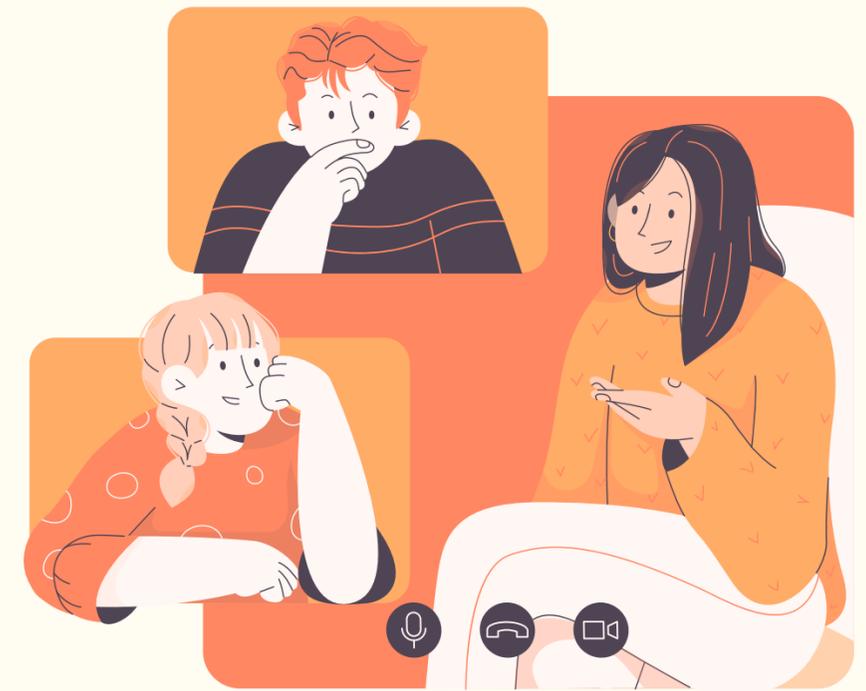


オレンジイノベーション・プロジェクト

認知症の人×学生 共創モデル —TOMJAPANの実践報告—

TOM JAPAN 2026.3.5



連携施設：かみやま倶楽部

目次



- 01 **TOM JAPANとは**
- 02 **連携施設の紹介**
- 03 **困りごとと紹介**
- 04 **ワークショップの実施**
- 05 **学生参画による意義**

目次



01 **TOM JAPANとは**

02 連携施設の紹介

03 困りごと紹介

04 ワークショップの実施

05 学生参画による意義

TOM JAPANとは

多分野の学生がNeed-Knower（障害のある人）と
共創してプロダクト開発を行っています

BEST ACCESSIBLE DESIGN
One Hand Zipper Bag Clopener
Japan Community
Mina Kitajima, Mika Okura, Yuho Okita, Nana Kiritani, Atsuki Usui

Body
Rubber sheet

Tikkun Olam Makers
2024
Global Innovation Challenge

This block contains an award certificate for a product called 'One Hand Zipper Bag Clopener'. The certificate is for the 'BEST ACCESSIBLE DESIGN' category, awarded to the 'Japan Community'. The team members listed are Mina Kitajima, Mika Okura, Yuho Okita, Nana Kiritani, and Atsuki Usui. The certificate includes a diagram of the product with labels 'Body' and 'Rubber sheet', a photo of the physical product, and a photo of an elderly man using the product. Logos for Tikkun Olam Makers and the 2024 Global Innovation Challenge are also present.



TOM JAPANの主な活動

困りごとの共有会



LINEオープンチャット運営
定期的に困りごと共有会を
オンラインで実施

アイデアソン開催



当事者参画型WSを開催
ニードヒアリングから
アイデア出しまでを半日で実施

プロダクト開発



3Dプリンタを用いて
当事者のニーズを反映した
プロダクトを開発



コミュニティ形成

多分野の学生 × Need Knower × 専門家の交流イベントの企画・運営

アイデアソンの開催



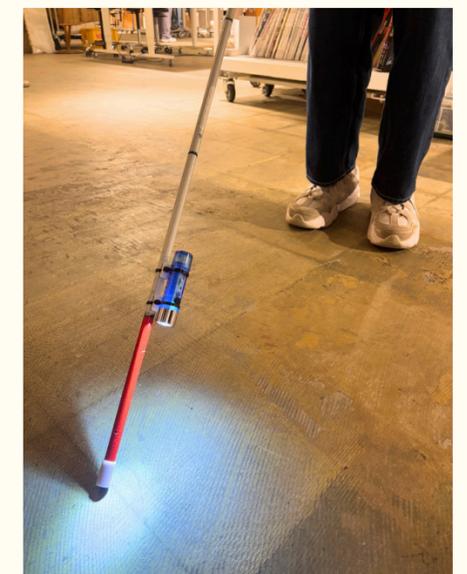
ニードヒアリング

アイデア出し
プロトタイプ作製、検証

発表



アイデアを
試作
実証実験



目次



01 TOM JAPANとは

02 **連携施設の紹介**

03 困りごと紹介

04 ワークショップの実施

05 学生参加による意義

かみやま倶楽部

若年性認知症、初期認知症のある方を対象としたデイサービス

認知症があっても主体的に取り組み、地域や社会との繋がりながら、
仲間と活動的に過ごすことを目指して活動している。

メンバー

1日あたり10～12名 約9割は男性

主な活動内容

- 認知症カフェ/地域でのカフェボランティア
- 屋外レクリエーション(外食、ピクニック、BBQなど)
- 講師を迎えてのレクリエーション(創作活動など)
- 季節の行事やイベント/家族交流会
- 日々の生活に関する活動(調理、清掃、買い物など)
- 仲間と認知症について語る



TOM JAPANの関わり

学生ボランティアとして
月に2～3回訪問（※8月より）



日々の活動の中で メンバーの様子を観察

実際の活動を見て一緒に過ごす中で、メンバーの方々との関係性を構築。また、メンバーの言動から困りごとを評価する。



支援者からの 情報収集

デイサービスのスタッフやイベントに参加されたご家族様から、日々の関わりの中での困りごとや工夫を聴取する。



問題点を抽出し 解決方法を検討

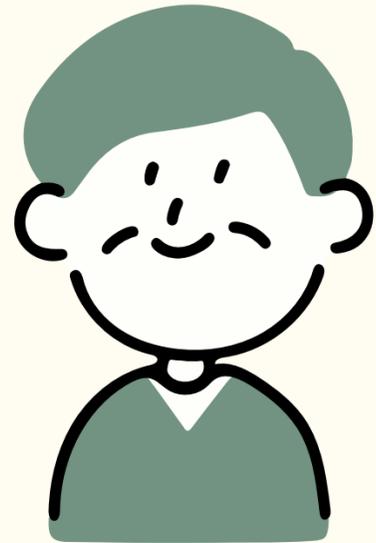
収集した情報から問題点を抽出し原因を分析する。また、プロダクトとして支援可能な問題点を選定し、プロダクト案を検討する。

目次



- 01 TOM JAPANとは
- 02 かみやま倶楽部の紹介
- 03 **困りごとと紹介**
- 04 ワークショップの実施
- 05 学生参画による意義

日常生活での困りごと



Aさん ご家族様と同居 みんなで一緒に活動するのが好き

失行・身体失認の影響で左手が上手く使えない

シャンプーボトルが
上手く使えない

✓ お風呂まで手伝ってもらうのは申し訳ない

✓ 自分でできることは自分でしたい

ご家族様からの声

Q 夫がお風呂でシャンプーを使ったか確認する方法はないだろうか？

お風呂でシャンプーを使ったか、使い忘れたのか確認できなくて困る。

お風呂を覗くと嫌がる。毎日使用の有無が確認できる方法はないか？

メンバーさんからも意見を聞きたい！

メンバーさんによって状態は様々…

- 認知症を受け入れられていないメンバー
- 困りごとを話したくないメンバー
- 困りごとがあっても言葉で上手く伝えられないメンバー

〇〇するときに
困っている人がいます
皆さんならどうやって
解決しますか？

メンバーさんと一緒に生活について考える場を設定

✓ メンバーさんはアイデアを提供する役割

✓ 自身の経験談も話しやすい雰囲気を作る



認知症の人×学生のワークショップを企画

目次



01 TOM JAPANとは

02 連携施設の紹介

03 困りごと紹介

04 **ワークショップの実施**

05 学生参画による意義

みんなでつくる 暮らしのアイデア

参加人数：19名
(うち、認知症の人：9名 学生：2名)

目的：日常生活の困りごとや工夫のアイデアを認知症の人と学生で共有する

12月18日(木) 13:30～15:00

13:30 グループ分け(6, 7人/班)・自己紹介
珈琲を飲みながら自然な交流時間を設定
WSの説明

13:45 困りごと：お風呂

- ・ テーマ(困りごと)を説明、既存製品の提示
- ・ グループで類似体験・暮らしの工夫を共有
- ・ プロダクトへの意見・改善点を検討

14:30 全体で共有

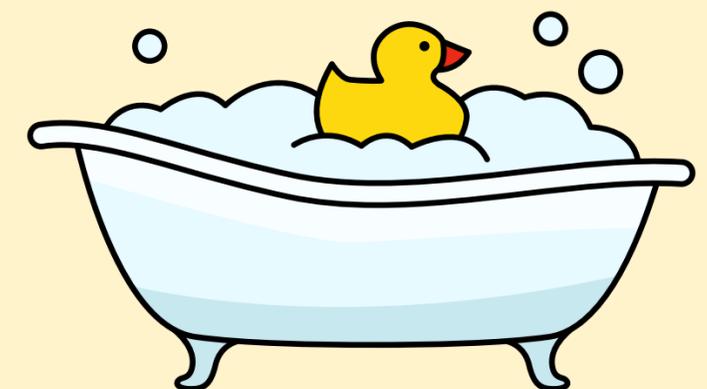
14:45 振り返り・まとめ

メインテーマ

困りごと お風呂

シャンプーを使ったか忘れる

お風呂で頭を洗う時にシャンプーやリンスを使うことを忘れることがある。



共創を成立させるためのWS設計

心理的安定性の土台づくり

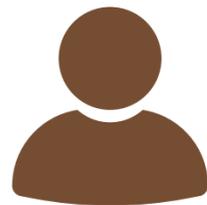
月2-3回の継続訪問

学生メンバー交流

カフェ交流時間設定

心理的・認知的負担を軽減

ペルソナの設定



テーマの段階付け



実物を提示



認知症の人が「支援する立場」になる構造

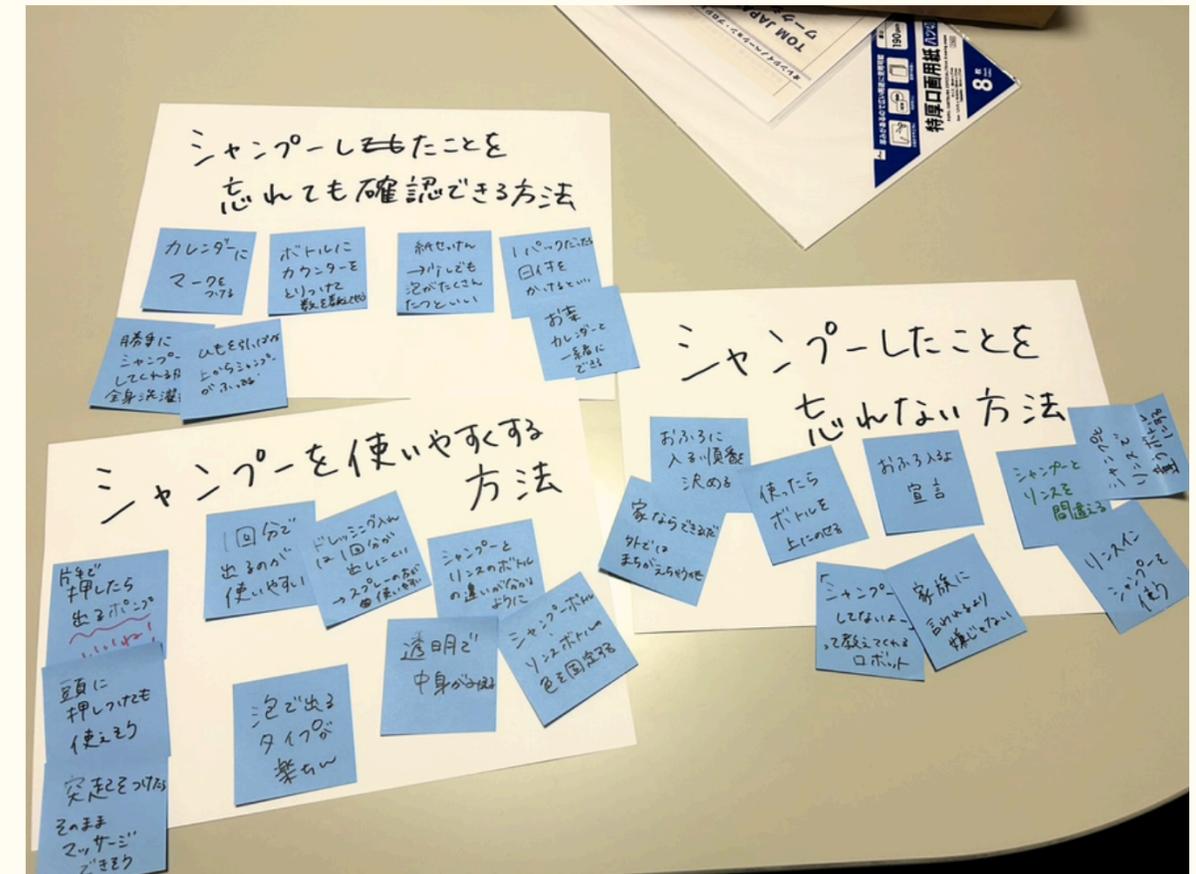
支援される側→共創者へ

WS当日の様子

積極的な交流ができた

- 珈琲を飲みながら交流する時間を設けたことで参加者の緊張感が緩和
- メンバーさんが進行してくれるグループもあり積極的な話し合いができた
- ご家族様での参加もあり、日々の生活の様子を聞くことができた
- 年代が異なるからこそ率直な意見交換ができた

認知症の人が「参加者」ではなく
「共創者」として参加



具体的なプロダクト案

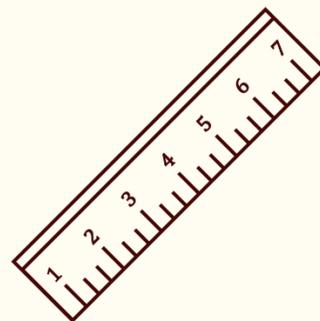


✓ 工程の工夫・支援

- 洗う順番の固定・習慣化(頭→顔→体など一方向で洗う)
- 浴室内のToDoリスト作成

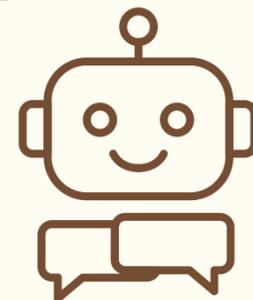
✓ 可視化プロダクト

- 透明ボトル+メモリで残量確認
- マーカーで順番や使用の有無を明確化



✓ AIなどのテクノロジー

- AI音声による声掛け
- 時間通知機能・非常時の呼び出し



実際のプロダクト



認知症の人の生活知 × 学生の発想



実装可能なアイデア

参加した認知症の人からの声

✓ 役割の回復

- 自分にも役に立てることがあってよかった
- 自分のできることで役に立ちたい

✓ 世代間交流の価値

- 若い人と交流できて新鮮だった
- 若い人たちが考えてくれているのが嬉しい

✓ 未来志向

- みんな年老いてこの道を通るのだから話し合っておくのがいいね



学生との交流により

「役割を再獲得する体験」ができる

目次



01 TOM JAPANとは

02 連携施設の紹介

03 困りごと紹介

04 ワークショップの実施

05 **学生参画による意義**

学生参画による効果

- ✔ **役割の再活性化**
学生＝教えたくなる存在
➡ 経験や知識を語る機会が生まれる
- ✔ **支援関係の再定義**
学生は「専門職」ではない
➡ 水平的な関係性が生まれる
- ✔ **未来世代との関わり**
自分の経験が次世代の学び・価値になる
➡ 認知症の人にとって意味のある参加になる



学生は 「役割を取り戻させてくれる存在」 になり得る

学生参画を促進するために

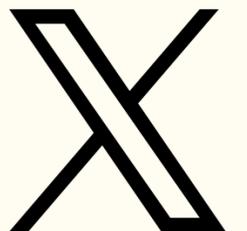
✓ 学生の役割を明確にする

- 認知症の人への「支援をお願いする」のではなく
「関わること自体に価値がある」ことを伝える
- イベントでは役割を担える共通のテーマ設定が重要



✓ 学生へ向けた広報

- SNSなどを利用して「関わりが見える」情報発信が必要
- 若者からの発信が同世代への理解促進につながる



若者から若者へ体験を共有

- 若者自身の言葉で体験を共有
- 認知症＝支援対象という固定概念を変える
- 同世代への認知症理解の促進



体験は、理解を変える

現代の若者は認知症の人を含め高齢者と接する機会が少ない

若者と認知症の人の交流機会の提供が重要

謝辞

本プロジェクトに際してご協力いただきました

- **かみやま倶楽部のメンバー様・ご家族様・スタッフの皆様**
- **経済産業省・事務局の皆様**
- **関係者の皆様**

心より感謝申し上げます。

ありがとうございました

お問い合わせ



Linktree

TOMJAPAN



E-mail

tom.japan001@gmail.com



Instagram

全体: @t.o.m_japan

東京: @t.o.m_utokyo



Q TOM JAPAN